

事実婚関係に関する申立書（記載例） （ハンセン病元患者家族補償金申請用）

1 婚姻の意思を有し、夫婦として共同生活を営んでいたことについての申立

下記①の者と下記②の者は、戸籍上の婚姻関係にはありませんが、当時婚姻の意思があり、③の期間において、夫婦としての共同生活を営んでいました。

① 氏名 厚生 太郎 住所 東京都千代田区霞が関〇ー〇ー〇
 ② 氏名 労働花子（請求者記載） 住所 _____

③ 明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
 ～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

2 同居についての申立

上記①の者と上記②の者は、次の期間において、同居していました。

明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
 ～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

3 別居についての申立

上記①の者と上記②の者は、夫婦としての共同生活を営んでいた期間のうち、次の期間においては、別居していましたが、その理由は次のとおりです。

明治・大正・昭和・平成 〇 年 〇 月 〇 日・頃
 ～ 明治・大正・昭和・平成・令和・請求日現在 〇 年 〇 月 〇 日・頃

＜上記期間に別居していた理由＞

昭和〇年〇月、厚生太郎（①）がハンセン病患者として、療養所に入所したため。療養所入所後ほどなく、昭和〇年頃からプロミンの治療を受けることができ、昭和〇年には退所しました。退所後には、再び同居しました。

4 備考 （※補足説明をしたい事項がある場合のみ、記載してください。）

（次ページにお進みください）

4

第三者による証言

<証言1>

(※該当する証言にチェック)

- ☒ 婚姻の意思に関する証言 ☐ 別居の理由に関する証言
☐ 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、厚生太郎さん（①）と同時期に療養所に入所していましたが、労働花子さん（②）は、療養所内で厚生太郎さん（①）のことを夫として紹介していました。

氏名 安心 太郎

住所 東京都千代田区霞が関〇—〇—〇

<証言2>

(※該当する証言にチェック)

- ☐ 婚姻の意思に関する証言 ☒ 別居の理由に関する証言
☐ 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、厚生太郎さん（①）と同時期に療養所に入所していましたが、厚生太郎さん（①）と労働花子さん（②）は、療養所に入所している間別居していましたが、退所した後は再び同居するということを聞いていました。

氏名 共生 光子

住所 東京都千代田区霞が関〇—〇—〇

<証言3>

(※該当する証言にチェック)

- ☐ 婚姻の意思に関する証言 ☐ 別居の理由に関する証言
☒ 夫婦として共同生活を営んでいたことに関する証言

上記①の者と②の者の関係について、私が把握している事実は、次のとおりです。また、私は上記①及び②の者の民法上の三親等内の親族ではなく、次の証言に虚偽はありません。

私は、かつて、厚生太郎さん（①）の隣の家で暮らしていましたが、厚生太郎さん（①）と労働花子さん（②）は、家事・育児を分担する、経済的に協力し合うなど、夫婦として共同生活を営んでいました。

氏名 健康 太郎

住所 東京都千代田区霞が関〇—〇—〇

厚生労働大臣 殿